

科目名	アジア経済論	科目分類	■専門科目群（第1グループ） □総合科目群（第2グループ）	
			経済学科	□必修 ■選択
			学科	□必修 □選択
英文表記	Asian Economy	開講年次	□1年 □2年 ■3年 □4年	
ふりがな	たかはほ やすなが	開講期間	□前期 □後期 □通年 ■集中	
担当者名	高千穂 安長	修得単位	2 単位	
授業のテーマ	現在の世界経済について決定的に重要な役割を果たしているアジア経済を対象とし、各国がどのような状況にあるのかを明らかにすることにより必要な判断力が身に付く。			
到達目標	経済記事が理解でき、自分の意見を表明できるようになる。 今後の日本を含めた世界経済の動向について正しい判断ができるようになる			
授業概要	日本、東アジア、ASEAN の順でアジア諸国は経済発展を遂げてきた。現在では世界経済の主要プレイヤーであるアジア経済について理解を深め、なぜそのような発展が可能だったのか、アフリカ、中南米諸国も同様な発展が可能なのかについて理解を深めていく。			
授業計画				
第1回	イントロダクション アジア経済論で学ぶこと、成績評価等の解説			
第2回	アジアと世界			
第3回	人口転換現象、ペティ・クラークの法則			
第4回	経済成長と所得分配			
第5回	人的資本、産業政策、アジア諸国の貿易構造推移			
第6回	低水準均衡のワナ、東アジアの奇跡			
第7回	アジア各国 台湾			
第8回	アジア各国 韓国			
第9回	アジア各国 中国			
第10回	アジア各国 マレーシア			
第11回	アジア各国 タイ			
第12回	アジア各国 ベトナム			
第13回	アジア各国 インドネシア			
第14回	アジア各国 地域共同体			
第15回	総復習 学生の理解が低い箇所について解説			
第16回	定期試験			
授業時間外の学習	授業前に各授業時に配布されるレジュメについて目を通しておく 分からないことは自分なりに調べておく			
履修条件 受講のルール	特にシークエンス条件はないが、地理・地勢的な状況等を地図で調べておくのが望ましい。			
テキスト	毎回、次回講義レジュメを配布する。			
参考文献・資料	1 大泉啓一郎「老いていくアジア」中央公論新社（中公新書）2007 年 2 アジア経済論、原洋之介、NTT出版 2001 年			
成績評価の方法	出席が2/3 に満たない場合、授業料その他納入金が未納の場合は受験を認めない。また、遅刻は1 回につき 1/3 欠席とする。成績評価は、受講態度(含討議参加度)など平常点 40%、期末テスト 40%、ミニテスト等 20%とする。			
オフィスアワー	集中講義時間はいつでもオープン			
成績評価基準	秀(100～90 点)、優(100～80 点)、良(79～70 点)、可(69～60 点)、不可(59 点以下)			

学生への メッセージ	世界経済はアジアを抜きには語れない。アジアは今の地位をどのように得たか。 大いに関心を持ち、関連したニュースなどにも注意を払うことが望ましい。
---------------	--